

# 新春経済講演会

—2010年日本経済のゆくえ—



副島国家戦略研究所 主宰  
副島隆彦氏

2月5日午後1時30分より舞鶴市商工観光センターにおいて毎年恒例の新春経済講演会を開催しました。

私たちは、今や世界の大局からその本質を捉え、日本国がとるべき方向を考えなくてはならない。その目的から国内屈指の政治・経済評論家である副島隆彦氏をお招きし、世界の金融・経済・政治の動きについて約240名の来場者を前に講演いただきました。

## ■政治・経済の情報と知識、思考の枠組み

私は東京を拠点に、ニューヨーク、ロンドン、ワシントンなどに行き情報をとります。アメリカ帝国の属国である日本国が戦後65年になりました。どうやって部分的に自分の力で立つことができるかという一番大事な問題を20年間追求し、そのことを150冊以上の本で書いてきました。特に、この3年間で起きているほとんどのことを言い当ててきました。

私は、最先端の情報と知識を基に、思考の枠組みを創ることができます。もうその位のところにはきました。

今日は、世界の大きな動きを皆様に伝え、その中で「本当にそうになっているのか」という方もおられると思いますが「こういう考え」もあるのだということをご理解いただきたい。

## ■帝国アメリカと属国日本

昨日何が起きたか。小沢一郎氏の不起訴が決まり、政治家小沢一郎氏の勝ち、東京地検特捜部の負けです。

一昨日ジョン・ルース駐日アメリカ大使とカート・キャンベル国務次官補が、国会議事堂の民主党の幹事長室で会談し「あなたを日本の検察から守ってやった。その代わりにアメリカに來い。180兆円の日本の郵便貯金のどれだけを使ってアメリカの国債を買うかを今から話し合おうではないか」ということになりました。小沢一郎氏の後ろ盾は、ゴールドマン・サックスのオーナーであるジェイ・ロックフェラーですが、やはりアメリカ帝国は属国である日本にお金を取りにきています。最後はお金の話になるのです。政治と経済の話は両方繋いで考えなければならない。これが副島隆彦が20年前に創った理論なのです。



講演資料を手に熱心に聞き入る参加者

## ■円・ドル相場の推移

戦後1ドルは360円でした。第二次中曾根政権時の1985年にプラザ合意がありました。その時の大蔵大臣は竹下登氏です。既に1ドル240円になっていました。3年後には1ドル120円まで落としたのです。その間に、日本の生命保険や証券会社に払込んでいたお金約20兆円をアメリカに投資したのです。それで1987年に竹下登氏は首相になれた。そういう取引があったのです。

為替は管理フロートと言われ管理されてきました。ところが、アメリカが急激にダメになり、日本が相対的に強くなりました。1995年に1ドル79円75銭がありました。必ずここを割ります。ドルが下落していくトレンドは誰にも止められないのです。120年間世界を支配してきたアメリカ帝国は仕方なく衰退していくのです。その大きな流れを見失わないでください。

## ■戦争経済（ウォー・エコノミー）

2003年3月20日にアメリカがイラク侵略戦争を始めました。その時まで不景気に乗じてFF金利を1%まで下げたのです。戦争が始まれば、過剰在庫が一掃できるので景気が良くなります。だから戦争を仕掛けるのです。戦争破壊事業という公共事業をやる訳です。これを「ウォー・エコノミー」というのです。この言葉を覚えておいてください。戦争「刺激」経済「ウォー・ブースト・エコノミー」を採らない限り巨大な帝国を維持できなかったのです。

戦争が始まったら5.25%まで金利を上げて貯金をつくりました。ところが、2007年の8月17日サブプライム崩れが起き、0.25%まで急激に金利を下げました。日本の政策金利も無理やり0.1%まで下げさせられ、金利が全然付かない国にさせられたのです。

## ■ドバイショック

ヨーロッパはギリシャ、ポルトガルが国家破産をしようなのです。次はスペインが危ない。しかしヨーロッパはもうアメリカの言うことは聞かないのです。だから、昨年11月25日にドバイショックをわざと起こされ、イギリスやフランスの銀行が大損をしたのです。アメリカが仕掛けるのです。これも恐ろしい話です。